



わたし かいせついん 私が解説員になったいきさつ

私の叔父は生前、岩手県奥州市水沢区にあった緯度観測所（現在は国立天文台水沢 VLBI 観測所）に努めており、「蜘蛛の糸博士」と呼ばれていました。当時は接眼レンズの中に十字に蜘蛛の糸を張って、6等星から7等星といった暗い星の子午線（真北—天頂—真南を結んだ線）の通過時刻を測定し、地球の動きを調べていました。

小学生のころ夏休みになると決まって岩手へ遊びに行き、叔父の家に泊まっては何度も緯度観測所へ連れて行ってもらいました。その時覗いた大きな大きな望遠鏡を「なんてかっこいいんだろう」と思い、そこから見えた宇宙に幼かった私は、ただただ感動したのを覚えています。



私が子供の頃の緯度観測所庁舎

©国立天文台

当時、竹の塚にプラネタリウムがあり、放課後は友達とよく遊びに行き、満天の星を眺めるのと展示された色鮮やかな星雲の写真を見て楽しんだものです。しかし、その後の私は天文の道へは進みませんでした。サーフィンや音楽に興味を持ち、大人になってからハワイへ語学留学をした時は、もちろんサーフィンも満喫しました。日本でもナイトサーフィンはしていましたが、ハワイの夜の海に浮かんで見る美しい星々に感動しました。ハワイで見上げた星々は、言葉にならないほどの美しさです。地球が宇宙に浮かんでいるような感覚（それは正しかったのですが）になります。

日本に帰ってすぐ、ギャラクシティのプラネタリウムに勤めます。改修で休館となり一度は退職しますが、リニューアル後再び応募して、「まるちたいけんドーム」に配属され、今では幼稚園や保育園の投影、一般投影を担当することで、宇宙の不思議や面白さを区民の方に伝えていきます。幼いころに心を動かされたものは今でも変わらず心を動かされ、道はつづいていくのですね。

2024年5月29日

かいせついん ひろせ りえ
解説員：廣瀬 理恵